

令和 7 年 7 月 11 日  
自己点検・評価委員会

はじめに

聖徳大学は、人材養成に関する目的及び教育研究上の目的並びに社会的使命を実現するため、教育の内部質保証への取り組みに努めております。平成 30（2018）年度より教育研究活動等の状況について、三つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）に基づく評価基準を自ら設定し、継続的に点検及び評価を行い、「教育の質」及び「学生の学びの質」の向上に努めて 7 年目を迎えました。その結果、本学の教育研究の水準は毎年着実に向上してきており、教育改革の推進とその特色ある先進的な取り組み内容の成果は社会からも一定の評価を得ております。

ここに令和 6（2024）年度の教育の内部質保証の取り組み結果について、以下のとおり公表いたします。

## 1. 教育・研究の質向上に向けた取り組み

令和 6（2024）年度第 1 回自己点検・評価委員会において、教育の内部質保証について前年度に引き続き「学習成果達成状況の言語化」、「学習成果達成の情報公表」などの達成目標を設定し、各学部・学科においてその目標達成に向けて取り組みました。その結果、学習成果の獲得状況を、数値による客観的指標と学生自身の振り返りの言葉で公表する「学習成果達成の情報公表」に到達している学科が倍増しました。学生は自らの学習成果を言語化して振り返ることで、学習成果の獲得実感と成長実感、自己肯定感を高めています。また、情報公表を通じ、学校という公共性の高い組織として社会への説明責任を積極的に果たせていると考えます。本学の教育の内部質保証の取り組みは年々向上しており、学生自身の成長実感に寄与する「学習成果の可視化・体系化」が確立しつつあります。今後も各学部・学科において各取り組みの成果の検証と、必要な改善を重ね、より完成されたシステムへ進化させるとともに、好事例の展開等を通して全学的な底上げを図り、大学全体の質向上に取り組めます。

学生の成長を促す本学独自の学びのプログラムとして、総合大学である強みを活かした「Field Linkage®」（以下 FL）を全ての学科で展開しました。FL は異なる専門分野の学生同士が「将来活躍する現場」での立場を想定しながら学び、多様な視点を取り入れて問題解決能力を養います。学生はこのプログラムを通して多職種協働による学びを深化させたり、他領域の視点から新たな価値観を学んだりしています。社会ではチームで業務やプロジェクトを推進する力が求められますので、引き続き FL を全学で推進してまいります。

FL と同様に本学独自の学びのプログラムである「Business Field Linkage®」（以下 BFL）も前年度に引き続き全学で展開しました。大学での専門的な学びと実社会（ビジネス社会）を結び付ける実践的な授業であるこのプログラムを通じて、学生が成長し、後述する高い実就職率にも繋がっていると考えます。受講した学生からは「プレゼン力など BFL で学んだ力が就職活動だけでなく学科の授業でも役に立った」「BFL をきっかけに将来の方向性が定まった」など高い評価を得ました。

研究面については、ゼミナールと卒業研究の充実に取り組めました。多くの学科でそれ

それぞれの学科の特徴を活かしたゼミ活動が展開されています。一例として看護学科では「課題探究学習セミナー」という科目で1～4年生の学年横断ゼミを実施しています。心理学科では1～3年生が卒業研究中間発表会の傍聴や質疑に参加しています。卒業制作を行う学生がいる児童学科や文学科では卒業制作展を開催し、在学生のみならず一般の方にも研究成果を公表しました。これら学年を横断したゼミナール活動や、卒業研究発表会等への参加により、3年生以下の学生が先輩の研究を自身の卒業研究に活かせるよう環境を整えています。また、卒業研究についてのルーブリックを導入する学科が増え、評価の観点が明確化することで、学生自身が評価の観点を理解しながら研究を進めることができるようになってきています。心理学科の学生が日本環境心理学会第18回大会で若手優秀発表賞を受賞したことは本学の研究面における成果だと考えます。今後も大学での学びの集大成であるゼミナールと卒業研究の充実に取り組んでまいります。

## 2. 学生のキャリア形成支援への取り組み

学びの成果の一つである進路支援については、令和6（2024）年度も、前年度に引き続きクラス担任やゼミ担当教員を中心に学科とキャリア支援課による教職協働の連携強化に努めました。1年次よりキャリア教育を通じて早期に学生自身のキャリア意識の向上を図り、各学科とキャリア支援課が連携して4年間にわたりシームレスな支援を行うことで、令和6（2024）年度卒業生の実就職率は97.6%となりました。これは4年連続で全国女子大学において第1位（大学通信調べ）となった昨年度の97.4%を上回り、過去最高の数値となりました。

就職先については、上場企業や女性活躍企業（「くるみん」「えるぼし」認定企業）などから内定を得る学生が年々増加しており、上場企業就職率が40.3%（令和5（2023）年度実績：36.8%）に達するなど、就職実績の向上に大きな成果を上げてきています。このように本学のキャリア支援は適切に実施されており、今後も各学科とキャリア支援課の連携を強め、学生が希望する進路を実現できるよう支援してまいります。

## 3. 学生募集（定員充足率向上）への取り組み

継続的な少子化の進行により18歳人口が年々減少するなど高等教育を取り巻く環境は厳しさを増しています。この厳しい状況を踏まえ学生募集の強化に取り組みました。

具体的な施策として、受験生の進路決定に大きく影響するオープンキャンパスにおいて「Let's Buddy」を新コンセプトとして策定し、本学の強みである伴走力と入学後の期待を醸成するプログラム構成へと刷新しました。また、多くの学科においては、学生が企画段階から参画し、当日の受験生対応にもあたりました。この取り組みは学生自身がいれば本学の魅力を受験生や保護者に伝えられるかを考え試行錯誤することで、学生自身の成長に繋がるのはもちろんのこと、受験生目線では入学後の自分をイメージするロールモデルにもなっています。さらに「Change, Challenge, Create.」をスローガンに掲げ、学生・保護者向けには「強く、楽しく、わたしらしく。」をメッセージとして打ち出しホームページのリニューアルを行うなどブランドの刷新に取り組みました。こうした学生主体のオープンキャンパスの実施や新しいイメージ発信により、オープンキャンパスの来場者アンケート結果における満足度が向上するなどの結果も表れ始めています。

退学者の抑制については、各学部・学科において退学防止に向けたワーキンググループの設置など、早期に問題を把握し、解決に取り組む体制が構築されつつあり、一定の成果を上げています。その一方で退学の理由は多様化しており、年々対応が難しくなっていま

す。引き続き退学に至る要因の分析と、対策に取り組む必要があります。

#### 4. 社会貢献・地域連携の取り組み

令和6（2024）年度も、児童学研究所・生涯学習研究所が例年主催している「アートパーク 17～伝説のとんでもワンダーランド～」を7月に開催したことや、高校生の行う探究的な学びの成果を発表する「高校生の体験発表会」を開催したことをはじめ、各学部・学科においても、学科の特色や専門性を活かした社会貢献・地域貢献活動に取り組みました。一例として、教育学科は千葉県教育委員会主催の「中学生・高校生との交流会」に教職志望の学生をファシリテーターとして派遣し、千葉県教育委員会からも高く評価されました。社会福祉学科は松戸市教育委員会と連携し、養護教諭コースの学生を市内の小中学校にボランティアとして多数派遣しました。人間栄養学部は株式会社アトレが運営する「アトレ松戸」及び東和フードサービス株式会社が運営する「Cheese Egg Garden」と連携し、松戸限定コラボメニューの開発、販売を行いました。音楽学部は11月4日に開催された松戸市主催の「世界 街角フェスタ」など多数のイベントに学生や教職員が出演し好評を得ました。学生は、こうした社会や地域との連携を通じて、地域課題の解決に取り組む、実践的な力を身に付けています。今後も大学のもつ知的資源を活かした社会貢献・地域連携活動を推進し、地域とともに発展していくことを目指します。

#### まとめと今後の方向性

以上のとおり、本学の教育研究活動の点検・評価は有効に機能しており、改善が毎年進み、その成果は確実に現れてきています。全学的に取り組んできた学習成果の可視化・体系化については、学生による学習成果獲得状況の言語化や、学習成果達成状況の公開が進み、仕組みとして概ね構築されたと言えます。今後はこの仕組みを踏まえ、各学科としての教育成果についての点検・評価を進めることと、引き続きPDCAサイクルを回し、全学的な質保証体制の更なる高度化に取り組んでまいります。

以上